



祐介の目

大田ゆうすけ

(福山市議会議員)

No.85

毎月1日号に掲載

校の避難所としての機能を強化するべきと提案した。先の7月豪雨災害では避難所の暑さが問題となり、北海道地震では広範囲の停電が発生したが、自家発電機を有する学校は少ないからだ。

学校空調をPFIで整備

福山市内の小中学校全教室(約1600)の空調整備は、PFI方式の導入可能性調査を行う事になった。PFI(プライベート・ファイナンス・イニシアティブ)の事業方式は、民間事業者が整備を行い完成後に公共に所有権を移転し、民間事業者が維持管理を行うBOT方式を予定している。この方式で松山市等の複数の市町の学校空調が整備されており実績は十分だ。最終的にPFIによる財政負担軽減効果が焦点となる。

さて、福山市としてPFI導入は初めての検討だが、市内にPFIで建設された施設は県の東部運転免許センターがあり、免許更新で訪れた際に随分立派な施設と感じた。PFIは費用負担を事業期間内で平準化できるので、少し余裕のある設計が可能になったのだ。そこで9月議会で単に学校に空調を整備するだけでなく、学

校の避難所としての機能強化するべきと提案した。先の7月豪雨災害では避難所の暑さが問題となり、北海道地震では広範囲の停電が発生したが、自家発電機を有する学校は少ないからだ。

空調の方式には電気式とガス式がある。さらにガス式には都市ガスとLPGガスがあるが、どれが災害時に最も有効かと考えれば、電線やガス管を有しないLPGガスに間違いはない。学校にLPGガスを貯蔵する災害バルクを備えたガス空調を導入すれば、停電時でも空調・照明・コンセント等の使用や炊き出しも可能となり、災害時避難所としての自立が可能だ。加えて広島県LPGガス協会は福山市と災害時におけるガスの供給に関する協定書も結んでいるし、インシャルコストは電気式と比較して高いが、文部科学省や経済産業省の補助金もある。

最後にPFIは市と特別目的会社が契約を結ぶことになり、入札説明書に市内企業も構成員に加える事が条件とは言え、東京の大手が受注したのでは地元企業のメリットは少ない。今後のPFI事業を見越して商工会議所等とも連携し、事業者を含めた勉強会も必要だろう。